別紙様式３

（西暦）2018 年度　博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

在宅 ALS 療養者の人工呼吸器装着に関する意思決定を支援する訪問看護師への管理者の関わり

学位の種類：　修士（　看護学　）
首都大学東京大学院
人間健康科学研究科　博士前期課程 人間健康科学専攻　看護科学域
学修番号　17894605
氏　名：　高橋　洋子
（指導教員名：河原　加代子　　）

目的：ALS 療養者にとって生死を分ける厳しい選択となる人工呼吸器装着に関する意思決定を支援する訪問看護師への管理者の関わりを明らかにすることを目的とした。
方法：ALS 療養者への訪問看護を積極的に行っている訪問看護ステーションの管理者として３年以上の経験があり、かつ訪問看護認定看護師の資格を有する３名の管理者を対象とした。研究協力者に半構造化面接によるインタビュー調査を行い、質的記述的に分析した。
結果：ALS 療養者の人工呼吸器装着に関する意思決定を支援する看護師への管理者の関わりについて 92 個のコードから 35 個のサブカテゴリー、８個のカテゴリーが抽出された。管理者は ALS 療養者への訪問看護初期に療養者自身の人となりや家族の様子を【管理者の持つ ALS 療養者の訪問看護の経験則】をもとに、担当する看護師のレディネスを考慮し、療養者及び担当看護師に対しての【支援の方向性の検討】をしていた。療養者の病状の進行による呼吸苦が出現し始めた時期に支援の方向性を軸に置きながら、担当看護師の【療養者や家族の状況の変化に対する気持ちの揺れを把握】し、【具体的なケアの方向性の提示】、【担当看護師のケアを支持】していた。また、療養者の意思決定を担当看護師だけでは支援しきれないと判断した時には【療養者・家族と担当看護師の橋渡し】となり、管理者が直接、療養者への看護を提供し【訪問看護ステーション全体のバックアップ体制の構築】をしていた。そして療養者の呼吸苦に対する緩和ケアが必要な時期には、【不足している知識の教育】を行い、療養者の意思が最期まで尊重されるよう担当看護師をフォローしていた。
考察：管理者は療養者の人工呼吸器装着に関する意思決定の場面で担当看護師と関わるだけではなく、訪問初期の段階から療養者・家族の人生観や家族関係のアセスメントを行い、担当看護師のレディネスから支援の困難さを予測し、支援の方向性の見通しを立てていた。
　管理者は自身の経験と訪問初期に検討した支援の見通しをもとに、担当看護師が療養者・家族の状況がどのように変化しても、療養者・家族に向き合い続けるための関わりをしていた。この関わりによって担当看護師は、担当としての自覚を再認識し、療養者・家族と真摯に向き合い、ケアが停滞することなく、適切に支援を継続することができていたと考える。
　管理者は、ALS 療養者の緩和ケアにおいて、不足している知識を教示するだけでなく、自身が ALS 療養者と家族に直接的に行った看護を通して担当看護師の成長を促す関わりをしていた。管理者は、自分の経験をもとに看護の専門性を発揮した行動を通して、担当看護師に訪問看護師として望ましい姿を示していたと考えられる。